idea

ニュースレター「イデア」

2021.10

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　一関市農業委員会　会長　伊藤公夫さん(後編)
3｜団体紹介｜　千厩八幡太鼓
5｜地域紹介｜　中通集落公民館（花泉）
7｜企業紹介｜　合同会社エール～いつもの訪問看護ステーション～（一関）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域運営の落とし穴⑮
9｜センターの自由研究｜　地名の謎ファイルNo.4「摺沢の水晶」

今月の表紙

古くから宗教儀式や祈祷、呪術ツールに用いられてきた“水晶”。弥生～古墳時代には水晶を用いた勾玉等が作られていたとか。それらは豪族などの有力者しか所持することができず、大和朝廷成立後は、下賜品として使われたことも。そんな“水晶”が地名の由来になったのでは？という地域が当市内にあります。果たしてその真相は？（自由研究）

idea ニュースレター「イデア」

発行　いちのせき市民活動センター　〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415　ホームページ:https://www.center-i.org/　メール:center-i@tempo.ocn.ne.jp
せんまやサテライト　〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

おしらせ

情報　第10回　新垣勉コンサート延期のお知らせ

昨年度開催を予定していながらも、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから、今年11月に開催を延期していた「第10回新垣勉おしゃべりコンサート」は、今年度も開催を延期致します。

最後(第10回)のコンサートを、生で多くの中学生に届けたいという実行委員会の総意から、安心して参加してもらえる環境、快く協力していただける状況を待つという判断を致しました。

延期日程等は決まり次第(来年)改めてお知らせします。

問合:090-5231-4333
(中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会
実行委員長　吉田恵子)

講座　認知症にやさしい図書館講座

一関市立藤沢図書館では、認知症になっても安心して暮らし続けられる街について考えてもらおうと、全6回の講座を開催します。第1回目は、「認知症にやさしい栄養講座」と題し、キューピー(株)の社員を講師に迎え、「栄養」について楽しく学びます。申し込みは下記まで(要事前申し込み)。

日時:2021年10月15日(金)
13時30分～15時30分
場所:藤沢市民センター　視聴覚室
(藤沢町藤沢字仁郷12-5)
対象:一関市内在住の方、医療関係者等(定員30名/参加無料)
問合:0191-63-5088
(一関市立藤沢図書館)

情報　花と泉の公園内「GardenHouse Pott」リニューアルオープン

「花と泉の公園」内で花卉生産用に使用していたビニールハウスが9月11日より「GardenHouse Pott(ガーデンハウス　ポット)としてリニューアルオープンしました。季節の花苗の展示販売のほか、各種体験教室(ハーバリウム、プリザーブドフラワーアレンジメント、テラリウム作り等)も行っています。詳細は公式ホームページ(「花と泉の公園」で検索)や各種SNSからご覧いただけます。

場所:花と泉の公園内　旧生産温室棟
(花泉町老松字下宮沢159-1)
営業時間:10時～17時※水曜定休
料金:入館無料(体験等は有料)
問合:0191-82-4066
(花と泉の公園(花泉観光開発㈱))

イベント　「いちのせき市民フェスタ21」11月21日に延期します

2021年8月29日(日)に開催を予定していた「いちのせき市民フェスタ21」は、「岩手緊急事態宣言」を受け、開催予定日を下記日程に延期しました。なお、最終的な開催判断は、開催日の2週間前における新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって決定致します。

日時:2021年11月21日(日)10時～14時
場所:花と泉の公園
内容:参加団体(約30を予定)による各種ブースの展開(活動紹介、体験、販売等)、主催者企画　※日程延期に伴い、当初予定から変更になった団体・企画あり
料金:入場無料
問合:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

講座　自治会長サミット Vol.12

自治会や民区、集落公民館など、地縁活動を担う組織の3役レベルのみなさんに向けた情報交換の場「自治会長サミット」。今年度は、これまでの自治会長サミット内で多くあがっていた悩みの声などをもとに、下記テーマで情報交換を行います。完全申込制(10月22日締切)、先着21名の定員です。

情報交換テーマ:
「今後の自治会費について考える
～次の総会に、今ならまだ間に合う！～」
開催日時:2021年10月29日(金)
18時30分～20時30分
会場:川崎市民センター　研修室
問合＆申込:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

募集　イチコレ 第2回コンテスト スタッフ募集

「いちのせき市民モデルコレクション(通称:イチコレ)」を一緒に創っていくスタッフを募集します。参加モデルの誘導や、照明・音響操作などが主な仕事ですが、経験・資格等は問いません。詳しくはホームページをご覧いただくか、下記までお問合せください。※右のQRコードからもご覧いただけます。

URL:https://www.center-i.org/
※「いちのせき市民活動センター　イチコレ」で検索しても上位に表示されます。
開催日:2021年11月23日(火・祝)
問合＆申込:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「その名も『まだ名のない産直』」

小梨市民センターの駐車場にある無人の産直。今年7月に設立した小梨農産物出荷者協議会が設置(小梨自治振興協議会は場所の提供)。旧清田小学校にあった物置を地域の方の協力で加工し、再利用しました。売り上げも順調で、現在出荷者(＝会員)も募集中です！

旧町村別の人口動態等を共有します。

2021年**9月1日**付
(2021年8月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	112174	-66
世帯数	46354	20
出生数	54	26

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55449	5	24422	17
花泉	12442	-3	4722	6
川崎	3408	-5	1290	4
千厩	10221	-3	4109	-1
大東	12488	-17	4937	-2
東山	6177	-25	2302	-1
室根	4593	2	1777	4
藤沢	7396	-20	2795	-7

156 / 112,174

伊藤　公夫

平成24年９月から令和３年９月19日まで、一関市農業委員会会長を３期９年務める。高校卒業後、１年間の専業農家を経て、公務員となるが、以降も兼業農家として農業（水稲）に従事。東山町松川三室出身・在住。昭和18年生まれ。

一関市農業委員会で新潟市農業委員会を視察した際の様子
（起立しているのが伊藤公夫さん）

第88回　一関市農業委員会　会長※　伊藤公夫さん　×　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺浩樹
※令和3年9月19日で任期満了

「譲る」も「続ける」も覚悟をもって
～農地は‘限られた資源’【後編】～

「農地法」に基づき、田や畑、採草放牧地の売買・転用には様々な規制があります。その目的は「農地等の利用の最適化」であり、「農業委員会」がその推進役を担っています。「先祖代々の土地を守る」という観点と、「限られた資源である農地を最適に利用する」という観点、そのどちらも大切にすることはできるのでしょうか？（2回シリーズの後編）。

小野寺　農地の集積・集約化を図る地域が増えてきましたね。

伊藤　遊休農地の発生防止・解消につなげるため、農業委員会としても基盤整備事業を契機とした集落営農組織の立ち上げや、若い担い手への農地の集積・集約化を推進しています。ただ、現状はそうした組織のリーダーは70代が多く、組織の維持に不安を抱えている地域が多いです。

小野寺　今の世代だけで止まってしまっては意味がないですから、生産組織で新卒職員を採用するような考え方が必要ですよね。

伊藤　農業委員の中にも生産組織の代表をしている人が複数いますが、みんな悩みはお金がないこと。農地が大きくなれば機械も大きくなり、機械が大きくなればオペレーターが必要になる。いかにしてオペレーターの人件費を捻出していくかに頭を悩ませているようです。

小野寺　確かに、オペレーターは若い世代じゃないと厳しいですしね。ただ、自分で農業をやるより、そうやって請負耕作をした方が良いという人も増えているのではないでしょうか？

伊藤　そう、請負耕作やった方が儲かるからね。過去に大冷害でいもち病が大発生した時、農家もタイ米を食べなければいけない惨めな思いをしましたが、請負耕作の人は関係なかった。請負った分の賃金は現金収入だし、収入の見通しも立てやすい。

小野寺　昔は結で賄ったものを、今はカネ計算。「一回なんぼ」の世界になってしまい、「ぎりすび」じゃなくなってしまいましたよね。

伊藤　水稲農家の辛さは、1年に1回しか収入がないこと。だから昔は、どこの農家でも換金作物として養蚕をやったんです。家族労働力さえ確保できれば、養蚕は良い収入源なんです。私は農蚕科※1を専攻しましたし、我が家でも養蚕をしましたが、年間で5～6回「掃き立て※2」をすれば、繭を売ったたびに収入が入り、「今度は野球帽を買ってあげる、次は靴ね」と。なので小学生でも手伝いました（笑）

小野寺　そういう家内制手工業がなくなったのは寂しいですね。

伊藤　葉タバコも契約栽培だから、収入は良いんです。米が1反歩15万円程度なのに対し、葉タバコは1反歩40万円。捨てられない基幹産業だったんです。それが働き手がないことで、耕作放棄地になってしまった。東磐井地域の遊休農地の多くは葉タバコと養蚕です。

小野寺　農業委員会ではそうした遊休農地に対してどういった対応を行うのですか？

伊藤　状況に合わせてですが、「農地中間管理機構※3」に委ねて、適正に農地を維持してくれる人を探すように促します。

小野寺　農地の貸し借りを仲介してもらうということですか？

伊藤　はい。現に私も田河津の若者に8反歩貸しています。私の住む三室は、猊鼻渓の水だし、日照りの心配もなく、土地は良い。ただ、20町歩の農地に60戸の農家がいるので、1戸平均4反歩にもならず、農業で食べていける人はいないんです。なので、後継者がおらず、中間管理機構を経由して農地を使ってもらっている人が多い。三室の半分近くの農地を、その田河津の若者が経営しています。

小野寺　中間管理機構を通して、他地区の農地を借りて農業をする人が増えているんですか？

伊藤　そうですね。土地改良区の水利費や固定資産税は自作者（土地の所有者）が払うので、借りる方には負担が少ない。貸す方はプラマイゼロに近いですが、先祖代々の土地が動かないでそこにある、ということに意味があるわけです。

小野寺　「農業所得をあげる」ことより「農地を守る」という感覚ですよね。私も父親の他界で水稲栽培を代替わりしましたが、「農地を継いでいく」という「意地」だけでやってるような状態です（笑）営農組織に頼んでいる土地もありますが、先祖代々の土地を守っているということにはなってますからね。

伊藤　ただ、守っていくことと同時に、将来どうするのかも考えなければいけない。後継者が来る見込みもない土地にしがみつき続ける人も少なくない。3日畑に行かなかったら草はボーボーになる。30年後にやる人がいるならまだしも、見込みがないのなら、しがみつく意味を考えなければ……。

小野寺　農業委員会は「先祖代々の土地を守れ」という指導ではなく「維持できないなら手放せ」という方向ですか？

伊藤　自立できる適正な農業者がいるのなら、その人に委ねた方が良い、という考えです。農地法では、農地を「現在及び将来における国民のための限られた資源」かつ「地域における貴重な資源」としています。個人のものという考えではなく、資源を有効に活用するという視点が重要なのではないでしょうか。

小野寺　中途半端にすることが一番良くないということですね。

伊藤　Uターンで就農して、トマトで1千万円稼いでるような農家も増えています。そこまでこぎつけるには、技術というより、覚悟や度胸です。

小野寺　苦しくても続ける人、借りてやる人も覚悟、貸したり、手放す人も覚悟。昔ばかり見ているのではなく、先を見据えて「覚悟」を決めるということが大事なんでしょうね。

伊藤　今、全国で「人・農地プラン」の実質化が進められています。当市においても、「地域農業マスタープラン」として、地域毎に「誰が農業を担っていくか」「誰に農地を集積・集約していくか」の話し合いが行われており、当委員も参加しています。こうした機会に、集落として、農地のこれからを考え、「覚悟」を持って実行に移していって欲しいですね。

一関市農業委員会
住所　一関市竹山町7-2
電話　0191-21-8692

※1　現在の岩手県立千厩高等学校に昭和23年にできた科。同学校の前身は「岩手県立農蚕学校」。
※2　種紙に張り付いている蚕種(卵)から生まれた幼い蚕を、蚕箔などの上に落とす作業のことで、実質的に蚕を飼いはじめることを指す。
※3　「農地バンク」とも呼ばれ、都道府県に１つ設置されている。岩手県では「公益社団法人　岩手県農業公社」が指定を受けている。

「つなぐ」と「つむぐ」心に響く音

千厩八幡太鼓

千厩八幡太鼓
昭和57年結成。一関市千厩町・千厩地区「北ノ沢集落(自治会)」のバックアップを受けながら、創作太鼓の演奏を行う。６名の大人メンバーのほか、毎年約10人の「千厩八幡太鼓ジュニア」が活動中。

※同会への連絡は千厩市民センター(0191-52-2309)もしくは下記番号へ

TEL：0191-52-3699(会長：小野寺安)
写真：団体集合写真(平成28年撮影)

集落と地域に根差した活動

「千厩町農村環境改善センター」から聞こえてくる太鼓の音。「千厩八幡太鼓」は千厩町千厩地区の北ノ沢集落の青年会(当時)が、「千厩夏まつり」で太鼓を演奏していたことに由来します。夏まつりのためだけの演奏ではなく、通年の活動をしていくことで、地域おこしにつなげられるのではと、有志が集まり、昭和57年に結成。集落内にある「北ノ沢八幡神社(※本殿は県指定文化財)」にちなんで「千厩八幡太鼓」と命名しました。

集落としてもこの活動を後押しすべく、「千厩八幡太鼓保存会」という後援組織があることも同会の特徴。集落(現在は自治会化)の構成員が会員となり、活動費の捻出などに協力してきました。

平成19年からは、子どもたちの健全育成の一助にと、小学生を中心とした「千厩八幡太鼓ジュニア(以下、ジュニア)」の活動もスタート。「千厩夜市」や千厩地区まちづくり協議会が開催した「アンブレラスカイ」など、地区内外のイベントにも積極的に出演、イベントを盛り上げています。

「ジュニア」の練習は毎週木曜日の夜に行われており、ジュニアコーチの小野寺寿さんと事務局長の菊地稔さんの音頭の元、子どもたちが演奏。子どもの演奏とは思えないその迫力に圧倒されます。

約1時間、休憩を挟みながらも集中力が途切れることなく、勇ましい表情で演奏を続ける子どもたち。主に小学生が対象の「ジュニア」ですが、学年や年齢関係なく、演奏の良し悪しをみんなで指摘しあいます。また、コーチの方が間違えてしまい、子どもたちから一斉に指摘が飛ぶ場面も……！

地区の大人と子どもが、程良い関係性で取り組む様子が伺えます。

太鼓をきっかけとした「人づくり」

「創作太鼓」を中心に演奏活動を行う同会。演奏する曲目は全てオリジナルの作品です。設立当初に制作した作品は、源義経公の戦馬「太夫黒」がテーマ。『出陣』というタイトルの通り、戦いに向かう光景が目に浮かぶような、勇ましい旋律です。「ジュニア」に入ったら、まず最初に取り組む曲目でもあります。そのほか、『宇治川の陣一の谷』『屋島の合戦』『吉祥天女』など、十数曲あるレパートリーの中には源義経公を題材にした作品が多数。

ちなみに、同会が使用している太鼓の中には、昭和61年に平泉で開催された「藤原秀衡公・源義経公・武蔵坊弁慶八百年御遠忌特別大祭」に千厩町の代表として出演することになった際、「千厩八幡太鼓保存会」が購入・寄贈してくれたものが。集落の想い・応援が詰まった太鼓が演奏のモチベーションを高めてくれています。

そんな同会は、単独での活動のほか、東磐井地区の太鼓団体と連携し、平成5年に「磐井太鼓同志会」を結成。年に一度「いわい太鼓フェスティバル」を開催しています。また、「(公財)日本太鼓財団岩手県支部」にも加入し、県連の事業にも積極的に参加するなど、他団体との交流・親睦を重ねながら切磋琢磨してきました。

平成20年には、なんと海外での太鼓演奏も！中国・開封市で行われた「菊祭り」での披露に加え、現地の小学校などで文化交流演奏を実施しました。

ジュニアコーチの寿さんは「世代間交流や文化交流などが年齢関係なくできることが太鼓演奏の魅力」と語り、会長の小野寺安さんは「太鼓を楽しく叩くことがまずは一番。そして子どもたちには活動を通して『あいさつができる子』になってほしい。コロナ禍で難しい部分もあるが、太鼓を通しての地域間交流は、『人としての成長』にもつながるため、継続していきたい」と力強く意気込みます。

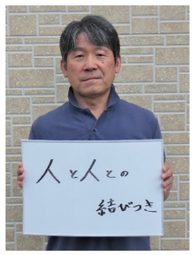
いつか地域に戻って来た時のために

活動においては「楽しむこと」を大切にしているという同会ですが、「どこも同じ」と前置きしつつ、「若手の担い手不足が悩み」と語ります。

「ジュニア」は集落外の小学生にも声をかけるため、ある程度の人数が集まりますが、「大人、特に20代は地元を離れてしまい、子どもたちに伝承できる人が少なくなってきている。約40年続けてきた活動が存続できるか不安がある」と表情を曇らせる安さん。少しでも若い人たちに魅力が伝わるよう、大人の演奏は「魅せる演奏」を意識しています。そうした努力を続けながら、「ジュニア」を経験した子どもたちが大人になって戻って来れるよう、同会は今後も「太鼓」という「居場所」を守っていきます。

Q.あなたにとって太鼓とは？

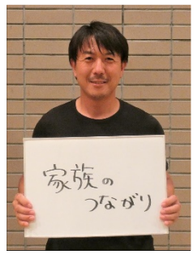
会長



A. 人と人との結びつき

おのでら　やすし
小野寺安さん
発足当時の北ノ沢集落の青年会長で、発足時から同会会長。現在は(公財)日本太鼓財団岩手県支部事務局長も担っています。

ジュニアコーチ



A. 家族のつながり

おのでら　ひさし
小野寺寿さん
父親が同会の結成に携わり、自身もジュニア時代から現在(コーチ)まで活動を続け、さらには子どもがジュニアとして活躍しています。

gallery - Photo

寄贈された太鼓
保存会から寄贈された太鼓。限られた人しか叩くことができない「大太鼓」を演奏することが、演者たちの夢です。

「魅せる」太鼓演奏
コロナ禍の現在、演奏を披露する場が少なくなってきていますが「魅せる演奏」を維持するため、練習は怠りません。

「ジュニア」の練習
太鼓は「自分を表現する場」であり「子どもたちの個性を発揮する場」でもあります。定例練習会は毎週木曜日夜19時から。

35周年祝賀会
「千厩八幡太鼓設立35周年」と「北ノ沢自治会設立30周年」を祝う祝賀会の様子。集落との関係性が窺えます。

「定年後の棲家」を受け止めながら

花泉　中通集落公民館

中通集落公民館（日形）

行政区は「日形４－１区」。旧日形小学校から集落公民館までは約３㎞、そこから約１㎞先には「刈生沢の滝渓流公園（中通分は一部）」がある山間集落。37戸100人弱が暮らす。

左の写真：平成16年に集落公民館敷地で開催した「カラオケビアガーデン」でのひとコマ。

「自然豊かな集落」ならではの「葛藤」

「10歳未満の子どもはゼロ。でも都会からの移住者は累計５軒。定年後に暮らすには良い場所ってことなんだろうね」そう苦笑いを見せる中通集落のみなさん。取材依頼をすると、すぐに５人も集めてくれ、普段からの密な関係性が窺えます。

舟運で栄え、川の近くに町場を開いた日形地区において、中通集落は山間地に位置します。日形地区は水害が絶えなかったため、徐々に山間地を開拓していったものと推測。そのため、同集落には旧家は少ないものの、10代以上続く家もあります。

しかし、進学を機に地元を離れる若者は多く、平成27年に日形小学校が老松小学校と統合すると、市内の他地区に住居を構える子育て世代が増加。令和３年現在、集落の最年少は13歳という現状です。

「子育て環境が悪いと思ってしまってるんだよね。過去に移住してきた人の中には『子育て環境が良いから』と、子ども連れで移住してきた人もいたのに。実際、そのお子さんは移住してきてすぐに体調が改善したようだ」と、同集落出身の若い世代との価値観の違いを冷静に語ります。

住民同士の交流を大切にしてきたからこそ

コロナ禍以前には親睦会や反省会等、ことある毎に懇親会を行なったり、平成初頭までは「長男会」や「若妻会」などの活動が盛んだったという同集落。若妻会は「十日会」という名称で、お嫁さんは１００％参加していた時代も。「集まる日が楽しみだったの。お嫁さん同士は今でも仲良しよ」と、当時参加していた方々が微笑みます。

その言葉通り、当時の若妻会のメンバーの多くは「中通わっははの会」に移行。同会は30年以上続くサロン活動で、「今の名称になったのは20年くらい前だけど、私の義祖母の世代から活動していたみたい」と、同会の現代表・小野寺恭子さん。かつては各戸から一人は参加する流れがあったようで、小野寺さんは40代の頃から関わっています（現在はサロン化したため、原則65歳以上が対象）。

月に１回の活動で、年間スケジュールは会員みんなで検討。年に２回は温泉（藤沢町「まさぼうの湯」）に行く回を設けることで「その時だけは男性会員も参加する」とのこと。現在の最高齢は88歳、月に１回の集まりを楽しみにしています。

また、平成23年までは「カラオケビアガーデン」と称し、同集落単独で夏祭りを開催。日中は竹を活用した流しそうめんや屋台を楽しみ、夕暮れからはビアガーデンとカラオケ、夜には花火……と、老若男女が集い、楽しんでいたとか。しかし、平成20年頃から日形地区全体でも夏祭りが開催されるようになると、日程がかぶるように。子どもが少なくなってきたことも考慮し、日形全体での夏祭りへ参加するということで集落の夏祭りは発展的終了としたものの、「日形全体の夏祭りには役がない限りは参加しにくいね。近いけど遠いのよね」と、本音がぽろり。集落で開催される、住民誰もが参加できる親睦行事は、現在は新年会のみ（コロナ禍で昨年度は中止）。集落で開催する親睦行事の意義を考えさせられます。

「必要最低限」の活動で得られるもの

集落事業について「積極的にやりぎない。必要最低限で負担をかけい」ことが大事だと語るのは集落公館長の増子修一さん。実際、集落独で取り組むのは、各種環境整備のほ集落内の市道における危険木伐採作など、生活に直結する事業のみです。

ちなみに、同集落では数期前から落公民館長含む集落の４役を班毎の番制にしました。「役の成り手がなて、家まで説得に押し掛けるような期もあってね」と輪番制になった背を振り返ります。

２月に開催する総会の時に、班毎分かれ、当該年度に引き受ける役にく人を相談。その他、総会時には農組合など、集落全体のあらゆる「役を見える化し、調整します。37戸にし、役は班長等を含め、合計35。高者一人暮らし世帯などを外すと、役成り手には限界があります。

こうした現状も受け、４班体制か３班体制に切り替える準備をしている同集落。３班にすることに合わせ、輪番制の集落役員も４役から３役に減らす予定です。

「定年後の棲家」であればなおのこと、安心に暮らせる環境と、負担の軽減の両立を図るべく、少しずつ集落運営の見直しを進めていきます。

Q.集落の自慢は何ですか？

集落公民館長

A. 自然に恵まれ人柄も良し

ますこ　しゅういち
増子修一さん

集落外出身の増子さんは、長男会に加入した最後の一人。少年時代には漫画家を目指していたというだけあって絵がお上手！

会計

A. 生活するのにとても便利

こんどう　まさのぶ（のりこ）
近藤正信さん（紀子さん）

東京からの移住者である近藤さんは震災前に同集落の山を買い、通いで開拓を進め、６年前に本格移住。輪番制で今年度は集落の会計を担っています。

- Photo gallery -

楽しかった夏イベント

平成23年まで集落恒例行事だった「カラオケビアガーデン」。子どもたちも流しそうめんの「流す側」に参戦！（平成16年）

市道の危険木伐採作業

「松くい虫」被害で立ち枯れ状態の危険木を毎年自主的に伐採・撤去しています。令和２年度は24名で作業しました。

集落の入口には……

「日花里保全振興会」が定植するシバザクラが中通地内の市道沿いにあり、同集落の女性陣も管理作業を受託しています。

「中通わっははの会」

年に２回「一関市花泉介護予防センター」を利用。普段の集落公民館での活動とは一味違うとか。この日は８名が参加。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴⑮

「耳障りの良い」言葉

「まちづくり」……なんとも響きのいい言葉です。この言葉を使えば、魔法をかけるかのようにまちを変身させることができる、そんな錯覚を覚えるのは私だけでしょうか？一方で、**「地域づくり」**となると、土臭くて、住民感情が入り乱れ、手を出したくないイメージが。

言葉とは、伝える手段としては必要なものですが、**使い方を間違えるとモノゴトの本質を崩してしまう**もの。特に最近は、ＩＴ用語やビジネス用語で用いる横文字が日常でも多用されているため、その言葉の本質を知らずに使っているうちに、モノゴトの本質が崩れてしまっている……という事案が見受けられます。

当センターでも**「Community Design(コミュニティ・デザイン)」**という言葉をロゴマークの中に使用していますが、これは、我々が‘デザイナー’であることを表現したくて使っている訳ではありません(本来の意図は「デザイン」を辞書で引いていただければ推測いただけるはず)。それにしても、この「デザイン」という言葉、麻薬のような、人を虜にする強い力を持った言葉であると感じています。そのせいか、最近、多いですね……「なんとかデザイナー」と謳う人が……(特に「まちづくり」の業界で)。

毎月、文通(お互いにフリーペーパーのやり取り)をしている秋田県出身・在住のデザイナー「澁谷デザイン事務所」の澁谷和之さんと「デザイン」について議論したことがあります。澁谷さんには当センター主催の「みちのくワークショップフォーラム」の講師として何度も一関に来ていただいているのですが、お互いに一致したのは、**「デザインという言葉が要らない社会になること」**です。

デザインという響きは、キラキラした世界を彷彿とさせ、デザイナーは‘魔法使い’のようなイメージに。でも、実際、デザイナーの仕事は、**クライアント(依頼主)から当該依頼に至る背景を聞き、伝えたい「本質」はどう表現すればより伝わるのか、その表現の具現化を支援する仕事**であって‘魔法使い’ではないからです。決してキラキラした世界ではなく、表現こそインパクトを与えるかもしれませんが、**表現を考えるために地味に地道に研究し、表現方法を考える粘り強さが求められる仕事**です。これは、**地域づくりを生業としている我々も同様で、地域の皆さんと現状や課題について考え、どのように課題解決していくのか、今はできなくても中長期的な視点で、どのように導いていくのかを考える地味で地道な仕事**であるのです。

澁谷さんは、自身のフリーペーパーでこんなことを書いています。

「日々、何気なく暮らしていると、なんとも耳障りの良い言葉が私たちの身の周りを支配していることに気づかされます」

「『リノベーション』とか『イノベーション』とかいう横文字の恐ろしいこと、恐ろしいこと……。ここ数年で一過性のファッションのように流行る『リノベーション』という実感のない言葉。空き店舗や空き家を再生させることを意味する言葉なのだろうけど、一度息絶えた場を再び息づかせるということは、そんなに甘っちょろいものでもないし、もっと、泥くさくて、ホコリっぽくて、オシャレとは縁遠いことだろうと僕は思うのです。

町を再生させていくことが、ファッションのように、流行として、不自然なスピード感で進むことの恐ろしいことよ。『リノベーション』なんて分かったような気にさせる言葉じゃなくって、『雑巾でホコリを拭き取って、人が居心地良くすること』とか、そんなふうに、分かり易く、やさしく噛み砕いた言葉が機能することを僕は願いたい。

『デザイナーズマンション』なんて言葉は(中略)『デザイン』という思考を、ただのオシャレとか、キレイとか、カッコイイとか、そのようなモノとしてしか認識していない、オシャレかぶれの人間が作り出してしまった、それはそれは悲しい言葉。」

「言葉が乱れ、その輪郭を失い始めた時、いよいよ日々を輪郭づける『デザイン』は大きな音を立てて崩れ落ち、朽ちていくと想像します。(『泣いたナマハゲの天気読み』2021.2月号)

まちづくり、地域づくりが「ブーム」になっているということは、ずっと指摘していることですが、澁谷さんの言うように、「新しい横文字」と「まちづくり」が‘オシャレを楽しむのと同等の扱い’になっていることに地域運営の落とし穴が潜んでいると考えます。**本質を見失うから**です。だから、我々は、デザイナーではなく、**地域の成り立ち、土臭さ、住民感情すべてを引き出し、「みんなが暮らす地域」をより深みをもって描きたい**、そんなことを日々考えています。

企業紹介

一関 合同会社エール～いつもの訪問看護ステーション～

看護師が患者の自宅等を訪問し、患者の病気や障がいに応じた看護を行う「訪問看護」。主治医の指示を受け、リハビリや点滴、注射など、病院と同じような「医療処置」が可能な点が「訪問介護」と異なります。

令和２年１月に設立した「合同会社エール」は、同年５月から訪問看護事業所「いつもの訪問介護ステーション」を開所。「エール」という言葉には、「応援」のほか、フランス語で「翼」という意味もあり、「様々な治療を受けながらも、住み慣れた地域・住まいで生活を送るために医療・看護の面からサポートし、利用者やその家族の方々が翼を得たように自分の人生の目標に向かって進むことを応援したい」という思いで社名に起用しています。

そのひと‘らしい’暮らしのサポートを

病院勤務から、開業への決意

合同会社エールの管理者(設立者)田頭賢治(でんどう)さんは一戸町出身で、青森県内の看護学校で看護師と保健師の資格を取得。平成19年、岩手県立南光病院に勤務することとなり、一関市に転入します。

看護学校在学中は「こころの健康」に強い関心を持ち、前職では精神科の看護師として「こころの不調」へのケアを行っていた田頭さん。看護師として病院内でケアを行う中で、「重要なのは入院治療だけではなく、普段の生活の場である自宅などにおける『こころの健康』なのではないか」と感じるようになったのだとか。

医療技術の進歩や国の医療費適正化計画により、昔に比べて入院期間は短くなり「在宅で治療を続けることが多くなってきている」という昨今。「こころの健康も同様で、入院治療だけではなく、通院しながら在宅でどのように治療を続けていくかが重要になってきている。治療を取り巻く環境が移り変わる中で、これまで以上に身近な存在として、利用者やその家族の方々の住み慣れた場所で、治療のお手伝いができれば」と、一念発起。令和2年、訪問看護ステーションを立ち上げたのです。

「強み」を活かした訪問看護

「起業した人や個人事業をしている知人が身近にいなかったことなどもあり、訪問看護事業を立ち上げるまでは本当にやっていけるか不安がとても大きかった。そんな中でも新しいことに挑戦することを快く受け入れ、サポートをしてくれた家族に大変感謝している」という田頭さん。

「訪問看護の承認を得たのが令和２年の5月1日、まさに全国的な緊急事態宣言の真っ只中で、利用者や支援してくださる医療機関、介護支援専門員のいる事業所へのあいさつを対面で行うことができず、事業所の特徴や利用者への説明が直接できないもどかしさがあった」と振り返ります。

現在、一関市内には訪問看護事業所が十数か所あり、それぞれに看護における得意分野や、夜間や早朝、休日対応の有無など、サービスに「強み」があります。同事業所は、体のケアのほかに、ストレスや精神疾患の治療、認知症状で悩んでいる方の「こころの不調への支援」が強み。心も身体も生き生きと生活していくことができるようなサポート体制を整えています。

「訪問看護というとあまりなじみのない職種かもしれませんが、治療を在宅で続ける一人ひとりに寄り添いながら、個人や家族と地域福祉、そして病院との橋渡し役だと考えています。在宅治療における身近な存在として、私たちの『いつもの訪問看護ステーション』という名前が自然に出てくるような、そんな事業所でありたい」と今後の目標を見据えます。

「いつもの所に相談しよう」そんな存在になれるよう、今日も10代～90代に至るまで、幅広い年齢層の利用者の元を笑顔で訪問しています。

1 現在の登録利用者は25名で、訪問件数にすると月120件ほど。

2 事業所外観。保健師１名、看護師２名、看護補助員１名が在籍。

3 管理者の田頭賢治さん。精神疾患や認知症状のケアが強み。

DATA
〒021-0883
一関市新大町108
TEL 0191-34-7720
FAX 0191-34-7721

地域の‘気になること’をセンタースタッフが独自に調査！

センターの自由研究

ミッション60 地名の謎ファイルNo.4「摺沢の水晶」

市内にある「由来が気になる地名」について深堀りする「地名の謎ファイル」。第４弾となる今回は大東町の**「摺沢」**。通説では「摺」は水晶をすり磨いたことに由来するとされ、摺沢には水晶にちなんだモノ・コトが複数あります。ここで疑問……水晶をすり磨いていたということは、水晶が採れるということか!?摺沢と水晶の関係性を明らかにすべく、その歴史等の調査に加え、実際に水晶の採掘に挑んで来ました！

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

■「摺沢」と「水晶」

「摺沢水晶あんどん祭り」が今年で35回目を迎えるなど、**「水晶のまち」**が代名詞のようになっている**大東・摺沢地区**。岩手県立大東高校や一関市立大東小学校・中学校の**校章**は**水晶**（六角形や勾玉）がモチーフにされ、各校の**応援歌や校歌**にも**水晶にまつわるフレーズ**が用いられています。

水晶をシンボルのようにしてきた背景には、次のような話が通説とされています。

神亀3年（726年）3月1日、坂本宿弥という者に神のお告げがあり、**鶴ヶ峰から美玉（水晶）を採掘。これを国司・大野東人に献じた**。大野東人はたいそう喜び、地中深く埋め、その上に社を建て**「興玉神社（奥玉神社）」**とした。

この伝承、**奥玉村（現千厩町奥玉地区）の地名由来**とされているもので、安永5年（1776年）に建てられた碑※に記されています。ではなぜ摺沢がこの伝承にあやかるのか……それは**「鶴ヶ峰」**が現在は**摺沢地内**にあるから！

つまり、**国司に献上した水晶は摺沢産**であり、その水晶は**「摺沢で摺り磨いた」**というのです…！

※「櫻森伊勢祠碑」。奥玉神社は櫻森神社の一角にある。

■スルサワ?スリサワ?

実は、摺沢が**「スリサワ」**という呼び方で統一されるようになったのは**明治以降**。それまで（戦国期以降～江戸期）は**「スルサワ」**とも呼ばれており、漢字も**「数流沢」「須留沢」**などと表記した時代が（城名も数流沢城）。

嘉永年間の文書『落穂集』には**「摺臼ヵ沢」**として、**摺臼のような地形にちなむ説**が記されており、**江戸後期から臼が省略された「摺沢」表記が増えた**可能性が。

「スリサワ」という呼び方は明治以降に増え、最終的には明治22年の市制町村制施行によって単独で自治体を形成した際に統一したのではないかと推測。

これらを踏まえると、**「摺沢」という地名由来の通説が、いつから、何をきっかけに「国司に献上した水晶を摺り磨いた地だから」という説になったのか、地元でもはっきりは分からない**のだとか……。

■「水晶石」が特産

ただ、ここで重要なのは**「水晶が掘り出されたのは本当なのかどうか」**。水晶を産出したとされる鶴ヶ峰は、後に**「玉堀山」**と呼ばれるようになりました（現在の玉堀公葬地がある山）。文献調査を進めると、嘉永5年の書上には、産物に**「鮎・水晶石」**と書かれており、嘉永7年には当時の**藩主・田村邦行公が玉堀山を視察し、実際に水晶を彫り出すことに成功した**旨の記録があることが判明！

つまり、**水晶が採れていたことは確かで、なおかつ特産品だった時代がある**のです。「水晶の里」であることに間違いはなく、実際、**地元集落では水晶らしき鉱物が度々発掘されている**のだとか。

そこで湧いてくる好奇心……**果たして今でも水晶が採れるのか!?**気になる結果は次ページへ！

水晶にちなんだアレコレ

◀毎年８月13～15日に行われる「摺沢水晶あんどん祭り」。昭和61年、お盆の迎え火を兼ね、摺沢商店街の活性化を図るために地域有志が創り上げたお祭りで、今年で35回目（昨年と今年はオンライン開催）。水晶にちなみ、あんどんを六角形にしているのが特徴。

玉堀山のふもとにある長者自治会の会館名称は「水晶の里長者会館（写真左）」、羽根折沢自治会の会館名称は「水晶館（写真右）」。▶

実証！「玉堀山」で水晶は掘り出せる!?

鶴ヶ峰

坂本宿弥が大野東人に献上した水晶が掘り出されたとされる「鶴ヶ峰」改め「玉堀山」。嘉永年間には「水晶石」が「産物」だった記録もあり、過去に産出されていたことは間違いありません。果たして現在も水晶石は掘り出せるのか!?実際に挑戦してきました！

※地元集落の方の案内で採掘を行っております。集落外の人が玉堀公葬地等において勝手な採掘をなさらぬよう、ご理解をお願いいたします。

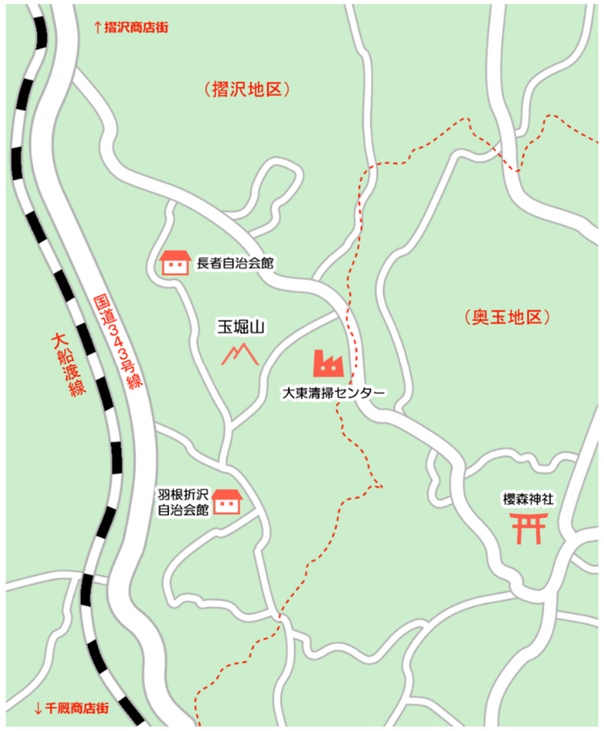
玉堀公葬地

水晶を掘ってみた

案内人は摺沢・長者集落在住で摺沢史談会の会員でもある佐藤英機さん。**「羽根折沢から長者集落にかけて水晶が採掘できる脈が続いている」**という話も。佐藤さんも実際に**畑や山の作業中に水晶らしき鉱物を何度も採掘している**そう！

調査には摺沢振興会もタイアップ！一緒に土を削っていくと……何かしらの鉱物が!!!当該地区の地盤は**花崗岩**でできていて、その中には**特に鉱物が大きく成長するペグマタイトという岩石**があるのだとか。そこに上手く当たった可能性も！

採掘開始から約１時間。**10個以上の鉱物を採掘**することに成功！１番大きいもので長さ５cmほど。果たして採掘した鉱物は水晶なのか……専門家の見解を伺うべく、「石と賢治のミュージアム」の調査員さんに見ていただきました！



鑑定結果は……!?

↑佐藤さん所有物

実際に調査中に採取した鉱物に、地元の方が過去に玉堀山周辺で採掘していた鉱物を加え、計７点の鑑定を依頼。その結果……なんと**７点中４点が水晶**であることが判明！しかもその４点のうち３点は**「煙水晶**（淡褐色や暗褐色の色合いを持った水晶）」、透明の六角柱の物については**「両錘」**という両端に結晶の頭が見られるもので**水晶としては特に素晴らしいもの**であることが判明しました。

ちなみに、残りの３点は**「石英」**。**水晶も鉱物学的には石英に分類**されるそうですが（水晶も石英も二酸化ケイ素（SiO_2）からなり、同じ結晶構造を持っていれば鉱物学的には全て石英に分類）、その中でも温度・時間・場所など様々な好条件が重なり、**「石英の結晶が肉眼でもわかる大きさに成長したもの」を「水晶」と呼ぶ**そうです。

両錘のある水晶
※地元の小学生が採掘

摺沢が「水晶の里」だったことは実証できましたが、地名の由来に関しては、実際には諸説あります。以下にその他の説（Ｐ９未記載のもの）をご紹介します！

■アイヌ語説
『日本先住民史（藤原相之助）』には「摺沢はスリサワなり、夷語の**スルゲナイ Surg-nai**にて**毒沢**なり、兜菊（トリカブト）の根より毒を取り、それを鏃（やじり）に塗りて射る為、兜菊を採取せるならん」とある。

■長老「摺沢坊主」から名づけた説　（摺沢史談会所有の資料より）
昔、家方公（仙台公）御出馬のおり、郷の年長者を呼べとの仰があったので、**観音講先住の摺沢坊主（111歳）**が呼び出された。家方公に郷の名前を聞かれるも、**未だ名前がないと答えると、家方公が「お前の名は何というか」と聞いた。「摺沢坊主」だと答えたところ、「今より摺沢と命名せよ」と仰せられた**という。

＜協力＞　摺沢史談会／摺沢振興会／摺沢水晶あんどん祭り実行委員会／石と賢治のミュージアム
＜参考文献＞　加藤進一（1967）『東山氏学研究発表会資料　摺沢町史抄』/摺澤尋常高等小学校編（1915）『摺澤村誌』/奥玉村誌「まとめる会」実行委員会（1988）『奥玉村誌』/摺沢史談会（1998）『郷土史叢書第三集　摺沢の歴史を探ねて』/大東町教育委員会（2000）『大東町の地名』/奥玉愛林公益会（2011）『史跡が語る勾玉の郷』/「角川日本地名大辞典」編纂委員会（1985）『角川日本地名大辞典　３　岩手県』

大東町内にある学校の校章にも水晶（六角形や勾玉）モチーフが取り入れられている。
さらに、各校の応援歌や校歌にも水晶にまつわるフレーズが！▶

岩手県立大東高等学校

一関市立大東中学校

一関市立大東小学校

▲ゴミ集積所の扉にも水晶モチーフを発見！

次号では「奥玉」と「摺沢」の関係に迫ります！※摺沢は奥玉郷から独立した村だった…！